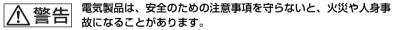
4-170-060-**02**(1)

シアタースタンドシステム

取扱説明書

RHT-G11

お買い上げいただきありがとうございます。

電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

4～8ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。
9ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら

❶ **電源を切る**

❷ **電源プラグをコンセントから抜く**

❸ **お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する**

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

指のケガに注意

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

接触禁止

ぬれ手禁止

行為を指示する記号

指示

プラグをコンセントから抜く

目次

接続と準備

再生

サラウンド効果

“ブラビアリンク”機能

詳細な設定

その他

下記の注意事項を守らないと**火災**・**感電**により死亡や大けがの原因となります。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光の当たる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。

内部に水や異物が入らないようにする

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。本機を水滴のかかる場所に置かないでください。また、本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。

➡ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。

➡ 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。

火炎源を置かない

本機の上に、たとえば火のついたローソクなど、火炎源を置かないでください。

風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置いて通風孔をふさいだり、キャビネットなどの狭い空間に押し込むなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。

電源プラグは抜き差ししやすいコンセントにつなぐ

異常が起きた場合にプラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるように、電源プラグは容易に手の届くコンセントにつないでください。本機の電源スイッチを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 設置時に、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものを載せたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源プラグを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

➡ 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。

雷が鳴りだしたら、本機や電源プラグに触れない

感電の原因となります。

本機を日本国外で使わない

交流 100V の電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。

本機にテレビを載せた状態で、寄りかかったりぶら下がらない

本機が転倒したり、テレビが落下して、大けが、死亡などの原因となることがあります。

移動の際、底面を持たない

本機を移動する際、前面底部を持つと滑りやすく危険です。図のように上棚の下側をお持ちください。

テレビや接続機器を設置したまま本機を動かさない

本機を動かすときは、必ずテレビや接続機器をはずしてください。
テレビや接続機器を載せたまま本機を移動させると、バランスを失い本機が倒れ、大けがの原因となります。

テレビと本機の間に電源コードおよび接続ケーブルをはさまないようにする

- 電源コードおよび接続ケーブルに傷がついて火災や感電の原因となります。
- 本機を動かすときは、電源コードおよび接続ケーブルが本機の下にからまないようにしてください。
  電源コードおよび接続ケーブルに傷がついて火災や感電の原因となります。

本機の上に乗ったり、棚板の間に入って遊ばない

お子様が本機の上に乗ったり、棚板の間に入って遊んだりすると、ガラスが割れる、本機が転倒する、テレビが落下するなどの事態が発生し、大けがや死亡の原因となります。

⚠注意

下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財**に**損害**を与えたりすることがあります。

加熱した鍋、湯沸しなど熱いものを置かない

禁止

ガラス天板が割れたりして、けがの原因となることがあります。また、本機を傷める原因となります。

踏み台にしない

禁止

落ちたり、ガラスを割ったりして、けがの原因となります。

ガラス天板に強い衝撃を与えない

禁止

本機には強化処理を施したガラスを天板に使用していますが、絶対に割れないわけではありません。割れると、破片がけがの原因となりますので下記のことをお守りください。

- ガラス天板を叩いたり、先端の尖ったものを落とすなど、強い衝撃を与えないでください。
- 鋭利なもので傷をつけたり、ガラス天板を突いたりしないでください。
- 収納機器を設置するときに、ガラス天板の端面にぶつけないでください。

ヒビの入ったガラス天板は使わない

ガラス天板が割れて、けがの原因になることがあります。

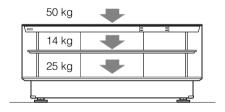
キャスターをキャスタートレイに載せるときは、キャスタートレイの上に手を置かない

キャスターとキャスタートレイの間に手をはさみ、けがの原因となります。

テレビを固定する

固定しないと、テレビが落下したり、本機が転倒してけがの原因となることがあります。この取扱説明書の説明にしたがい、テレビを固定してください。

総積載量についてのご注意

下の図に示す質量以上のものを載せないでください。指定の質量を超えると、天板や底板が壊れることがあります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。

ガラス天板は外さない

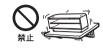
内部の部品に触れるなどして、けがの原因になることがあります。

大音量で長時間つづけて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

➡ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞きましょう。

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いた所などに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。

コード類は正しく配置する

電源コードや AV ケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。

移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。

お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

設置上のご注意

- テレビを取り付けるときには、手や指をテレビと本機の間にはさんで傷つけないようにご注意ください。
- 直射日光が当たる場所や、暖房器具のそばに置かないでください。
- 高温多湿の場所や屋外に置かないでください。
- 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている床に本機を置くと、床に変色、染みなどが残る場合があります。
- 本機は、ハイパワーアンプを搭載しています。そのため、本機背面の通気孔をふさぐと、機械内部の温度が上昇し、故障の原因となることがあります。本機背面の通気孔を絶対にふさがないでください。
- 本機を動かすときは、テレビや接続機器をはずしてください。テレビが落下して大けがの原因となります。移動の際には指をはさまれないようご注意ください。また、本機のスピーカーネットを持たないでください。スピーカーネットがはずれて落下するなどして、けがの原因となることがあります。

使用上のご注意

- 熱いものを本機に置かないでください。熱により変色、変形することがあります。
- 美しい状態でお使いいただくため、お手入れをする際には、やわらかい布で、軽くから拭きしてください。汚れがひどいときは食器用洗剤を 5 ～ 6 倍に薄め、やわらかい布に含ませて軽く拭き取ってください。シンナーやベンジンなどの化学薬品はスタンドの仕上げを傷めることがありますので、使わないでください。
- 本機の足に砂やゴミなどが入り込んだ場合、床を傷つけることがあります。

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による**大けが**や**失明**を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠危険

電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることもあります。

必ず次の処理をする

指示

- ➡ 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- ➡ 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

⚠警告

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

- ➡ 電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。
- ➡ 万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。

電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

＋と－の向きを正しく入れる

＋と－を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

- ➡ 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。

使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。

使用上のご注意

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

商標について

本機はドルビー *1デジタルデコーダーおよびドルビープロロジック（II）アダプティブマトリックスサラウンドデコーダー、MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS*2デコーダーを搭載しています。

*1 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic、“AAC”ロゴ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
以下が米国AACパテントナンバーです。
Pat. 5,848,391; 5,291,557; 5,451,954; 5,400,433; 5,222,189; 5,357,594; 5,752,225; 5,394,473; 5,583,962; 5,274,740; 5,633,981; 5,297,236; 4,914,701; 5,235,671; 07/640,550; 5,579,430; 08/678,666; 98/03037; 97/02875; 97/02874; 98/03036; 5,227,788; 5,285,498; 5,481,614; 5,592,584; 5,781,888; 08/039,478; 08/211,547; 5,703,999; 08/557,046; 08/894,844

*2 米国パテントナンバー：5,451,942; 5,956,674; 5,974,380; 5,978,762; 6,487,535 の実施権、及び米国、世界各国で取得済み、または出願中のその他の特許に基づき製造されています。DTSおよび記号はDTS, Incの登録商標です。DTS Digital SurroundおよびDTSロゴはDTS, Incの商標です。製品はソフトウェアを含みます。© DTS, Inc. 無断複写・転載を禁じます。

本機は、High-Definition Multimedia Interface（HDMI®）技術を搭載しています。

HDMI、HDMI ロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の米国およびその他の国における登録商標です。

“ブラビアリンク”および“BRAVIA Link”ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

“プレイステーション”は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの商標です。

付属品を確かめる

- リモコン
（RM-ANU031）（1）

- 単3乾電池（2）

- HDMIケーブル
（テレビ接続用）（1）

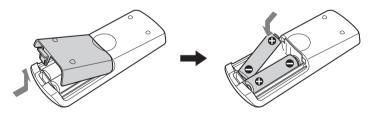
- 光デジタル音声コード
（テレビ接続用）（1）

- キャスタートレイ（4）

- 棚板（1）

- 取扱説明書（本書）（1）
- 保証書（1）
- ソニーご相談窓口のご案内
（1）

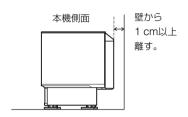
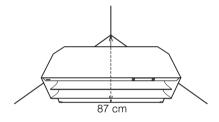
リモコンに電池を入れる

付属のリモコンで本機を操作できます。＋と－の向きを合わせて、単3乾電池（付属）2個を入れてください。

ご注意

- 高温、多湿の場所を避けて保管してください。
- 新しい乾電池と使った乾電池を混ぜて使わないでください。
- 乾電池を交換するときは、異物が入らないようにご注意ください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。
- 長い間リモコンを使わないときは、液漏れや破裂を避けるために乾電池を取り出してください。

本機を設置する

設置場所について

本機を設置するときは、放熱を妨げないように壁から1 cm以上離して設置してください。必ず2人以上で設置してください。

本機は部屋のコーナーに設置しやすいように、後部を斜めに仕上げてあります。部屋のコーナーに設置する場合、コーナーから本機前面まで約87 cmの距離が必要です。

ご注意

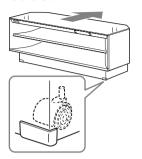
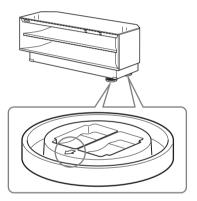
- 設置の際に、手をはさまないよう気をつけてください。

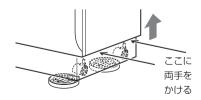
本機のキャスターを固定する

安全のため、キャスタートレイ（付属）をキャスターの下に設置して、本機を固定します。片側2個ずつ一緒に設置します。

1 本機を設置場所よりやや手前に置く。

2 本機を後ろに数cm押す。

キャスターが自然に図のような向きになります。

3 片側2個のキャスターの前にキャスタートレイを置き、キャスタートレイの矢印を本機正面に向ける。

4 本機側面の下に両手をかけて本機を持ち上げ、キャスタートレイの上にキャスターを置く。

次のページへつづく

5 本機を前後に揺すり、キャスターが固定されているかどうか確認する。

6 反対側も同様におこなう。

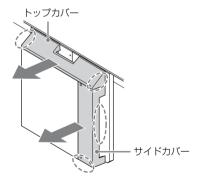
棚板を取り付ける

本機の側板と背板に取り付けられた棚板取り付け用ピンの上に、棚板を水平に差し込む。

転倒防止の措置をする

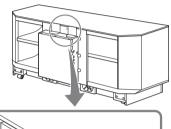
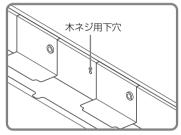
地震などが起きたとき、テレビや本機が転倒することを防ぐため、必ず転倒防止の措置をしてください。ソニー製液晶テレビをお持ちの方は、下記の手順で転倒防止の措置をしてください。

1 本機背面のトップカバーとサイドカバーをはずす。

トップカバーは図のように両側を持って、ゆっくりと引き抜きます。
サイドカバーは図のように側面と下側を持って、ゆっくりと引き抜きます。

2 本機の天板にテレビを載せる。

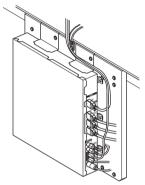
天板の左右の中心にテレビを載せてください。テレビのテーブルトップスタンドの後端を、天板の後端に合わせてください。

3 テレビに付属の転倒防止用ベルトを取り付ける。

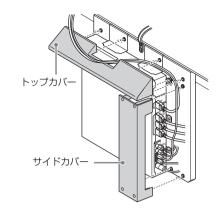
詳しい手順は、ソニー製液晶テレビの取扱説明書をご覧ください。
本機背面の中央に木ネジを留める下穴があります。

ケーブルを整理する

テレビやその他の機器からのケーブルを、本機のカバーの中にまとめることができます。

1 テレビやその他の機器からのケーブルを本機につなぐ。

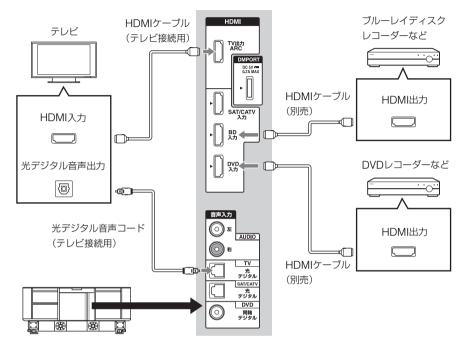
詳しくは「テレビやレコーダーをつなぐ」（14ページ）、「衛星放送チューナー、ケーブルテレビチューナーをつなぐ」（16ページ）、「その他の機器をつなぐ」（17ページ）をご覧ください。

2 ケーブルをまとめながらトップカバーを取り付け、次にサイドカバーを取り付ける。

テレビからのケーブルをトップカバーの切り欠きに通します。

トップカバーとサイドカバーの突起を、図のように本機背面の穴に差し込みます（4箇所ずつ）。

ご注意

- トップカバーとサイドカバーを取り付ける際に、ケーブルを挟み込まないようご注意ください。

テレビやレコーダーをつなぐ

HDMI端子があるテレビやレコーダーなどは、HDMIケーブルをつなぎます。
“ブラビアリンク”に対応した機器をHDMIケーブルでつなぎ、テレビで接続機器の設定をすると、便利な「“ブラビアリンク”機能」が使えます（26ページ）。

ご注意

- 本機はARC（オーディオリターンチャンネル）機能に対応しています。ARC機能に対応しているテレビのHDMI入力端子につないだ場合、光デジタル音声コードの接続は不要です。
- ARC機能に対応しているテレビのHDMI入力端子には「ARC」と表記されています。それ以外のHDMI入力端子につないでも、ARC機能は働きません。
- ARC機能はHDMI機器制御機能がオン（入）のときに有効です。
- 本機のHDMI入力端子の機能はどれも同じです。“プレイステーション 3”などは空いている端子につなぎます。
- 機器を同軸入力端子や光入力端子とHDMI端子に同時につないだ場合、HDMI端子からの信号が優先されます。

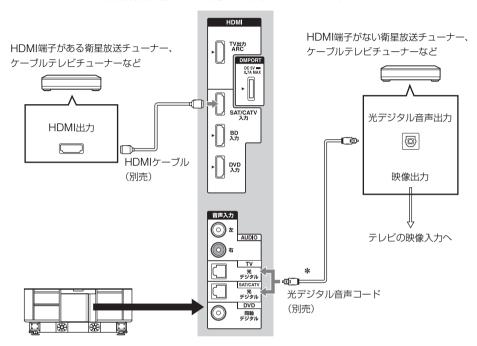
ちょっと一言

- 本機の電源がオフ（スタンバイ）のときでも、テレビにHDMI信号が伝送されて、接続機器の映像と音声をテレビで楽しむことができます。

HDMI端子の接続について

- High Speed HDMIケーブルをご利用ください。Standard HDMIケーブルの場合、1080pやDeep Color、3Dの映像が正しく表示できない場合があります。
- 認証を受けたHDMIケーブルをおすすめします。
- HDMIケーブルでつないだ機器の映像がきれいに映らなかったり、音が出ないときは、つないだ機器側の設定をご確認ください。
- HDMI端子からの音声信号（サンプリング周波数、ビット長など）は、つないだ機器により制限されることがあります。
- 接続機器からの音声出力信号のチャンネル数やサンプリング周波数が切り換えられた場合、音声が途切れることがあります。
- 接続機器が著作権保護技術（HDCP）に対応していないために、本機のHDMI TV出力端子の映像や音声が乱れたり再生できない場合があります。このような場合は、接続機器の仕様をご確認ください。
- HDMI-DVI変換ケーブルの使用はおすすめしません。
- 本機の入力が「TV」、「DMPORT」または「AUDIO」のときは、HDMI TV出力端子からは前回選択されたHDMI入力（BD、DVDまたはSAT/CATV）の映像が出力されます。
- 本機はDeep Color、"x.v.Color"および3D伝送に対応しています。
- 3D映像を楽しむには、3D表示に対応したテレビおよび映像機器（ブルーレイディスクレコーダー、"プレイステーション3"など）と本機をHDMIケーブルでつなぎ、3Dメガネを装着したうえで、3D対応のブルーレイディスクなどを再生してください。

衛星放送チューナー、ケーブルテレビチューナーをつなぐ

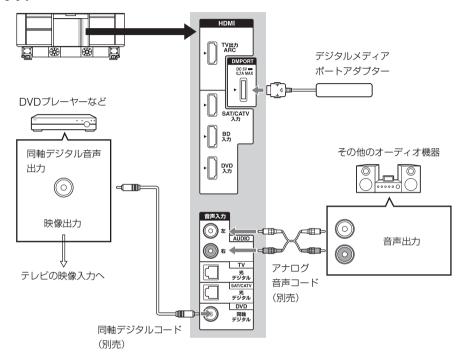
HDMI端子のない衛星放送チューナー、ケーブルテレビチューナーをつなぐ場合は、本機のアンプメニューでHDMI機器制御機能をオフ（切）に設定してください（27ページ）。

＊ HDMI端子がないケーブルテレビチューナーをお使いの場合でも、「テレビやレコーダーをつなぐ」（14ページ）では光デジタル音声コードをつながずに、チューナーの光デジタル音声出力と、本機のTV光デジタル音声入力をつなぐと、HDMI機器制御機能をオン（入）に設定したままで使うことができます。
この接続をすると、お使いのテレビによっては本機から音声が出なくなることがあります。その場合は本機のアンプメニューで「ARC」をオフ（切）にしてください（31ページ）。

ご注意

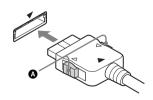
- 上記「＊」の接続方法はケーブルテレビチューナーのみ有効です。衛星放送チューナーは光デジタル音声コードをSAT/CATV光デジタル音声入力につないでください。
- 地上デジタル放送の音声を楽しむには、ケーブルテレビチューナーの電源をオン（入）にしてください。

その他の機器をつなぐ

“プレイステーション 2”やDVDプレーヤーなど、HDMI端子のない映像機器をつなぐ場合は、本機のアンプメニューでHDMI機器制御機能をオフ（切）に設定してください（27ページ）。VHSデッキなど、サラウンド音声を出力しない映像機器の場合は、映像／音声出力端子を本機につながず、テレビにつなぐと、HDMI機器制御機能をオン（入）にしたままでお使いいただけます。

HDMI
TV出力 ARC
DMPORT
DC 5V ⎓ 0.7A MAX
SAT/CATV 入力
BD 入力
DVD 入力
デジタルメディアポートアダプター
DVDプレーヤーなど
同軸デジタル音声出力
映像出力
テレビの映像入力へ
その他のオーディオ機器
音声入力
左
AUDIO
右
音声出力
TV 光デジタル
SAT/CATV 光デジタル
DVD 同軸デジタル
アナログ音声コード（別売）
同軸デジタルコード（別売）

ご注意

- 本機の電源が入っているときは、デジタルメディアポートアダプターを抜き差ししないでください。
- デジタルメディアポートアダプターを差し込むときは、コネクターとデジタルメディアポート端子（DMPORT端子）の矢印が向かい合っていることを確認してください。デジタルメディアポートアダプターを取りはずすときは、Ⓐを押しながらコネクターを抜いてください。

接続と準備

電源コードをつなぐ

他の機器やテレビをつないでから、本機の電源コードを壁のコンセントにつないでください。

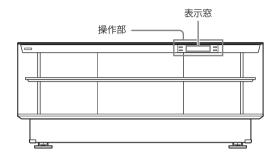
ご注意

- 本機は、コンセントの近くでお使い下さい。ご使用中不具合が生じた時は、すぐにコンセントから電源プラグを抜き、電源を遮断して下さい。

接続機器の音声出力を設定する

接続機器の音声出力設定によっては、2チャンネルの音声しか出力されないことがあります。この場合、マルチチャンネル音声（AAC、DTS、Dolby Digital、マルチチャンネルLPCM）で音声を出力するように、接続機器を設定してください。音声出力の設定については、接続機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

各部の名前と働き

詳しい説明は（　）内のページをご覧ください。

操作部

1 INPUT SELECTOR（入力切換）ボタン

再生する入力ソースを選びます。
押すたびに次のように切り替わります。
TV → BD → DVD → SAT/CATV → AUDIO → DMPORT → TV .....

2 I/⏻（電源）ボタン

3 POWER/ACTIVE STANDBY

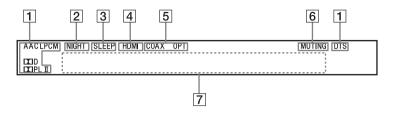
以下のように点灯します。
緑：電源が入っているとき。
オレンジ：本機のHDMI部分にのみ電源が入っているとき（HDMI機器制御機能がオン（入）のとき）。
消灯：電源が切れているとき。

ご注意

- オレンジのランプは、テレビの電源を切ってから約30秒後に消灯します。ただし、省電力機能（HDMIパススルー）がオン（入）のときは消灯しません。

4 リモコン受光部

5 VOLUME（音量）＋／－ボタン

表示窓

1 **音声フォーマット表示**

本機に入力されている音声フォーマットが点灯します。
D：ドルビーデジタル
PLII：ドルビープロロジックII
AAC：Advanced Audio Coding
LPCM：リニアPCM
DTS

2 NIGHT（34）

NIGHT MODEのときに点灯します。

3 SLEEP（35）

スリープタイマーを設定したときに点滅します。

4 HDMI（14、16）

HDMI対応機器を使っているときに点灯します。または、本機の入力が「TV」の場合、ARCの信号が入力されているときに点灯します。

5 COAX/OPT

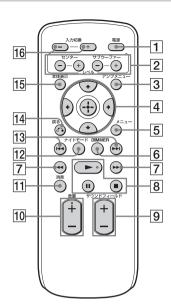
COAX（同軸入力）、OPT（光入力）のうち、現在使われている音声入力が点灯します。

6 MUTING

消音機能が有効になっているときに点灯します。

7 **メッセージ表示領域**

音量や選ばれている外部入力、入力された音声信号の種類などを表示します。

リモコン

本機の操作に使うボタン

1 電源ボタン

2 レベル

センタースピーカーとサブウーファーの音量を調節します。ここでの設定が、すべてのサウンドフィールドに反映されます。

3 アンプメニューボタン（32ページ）

4 ←/↑/↓/→、⊕

←、↑、↓、→で設定を選び、⊕で決定します。

6 DIMMERボタン

表示窓の明るさを2段階で調節します。

9 サウンドフィールド+／−ボタン（24ページ）

10 音量+／−ボタン

11 消音ボタン

12 ナイトモードボタン

小さい音量でも音響効果やセリフの明瞭さを失わずに音声を楽しめます。

14 戻るボタン

15 本体表示ボタン

「DISPLAY」を「OFF」に設定しているときに（35ページ）、本機の状態を数秒間表示します。また、デジタル音声信号が本機に入力されているときに押すと、入力信号のチャンネル数（5.1chなど）を確認することができます。

16 入力切換+／−ボタン

接続機器の入力を切り換えます。
押すたびに次のように切り替わります。
TV ↔ BD ↔ DVD ↔ SAT/CATV ↔ AUDIO ↔ DMPORT ↔ TV .....

デジタルメディアポート端子（DMPORT端子）につないだ機器の操作に使うボタン

下記の説明は基本的な操作の一例です。つないだ機器によっては操作できないか、または下記の記載とは異なった動作をする場合があります。

4 ←/↑/↓/→、⊕

5 メニューボタン

7 ◀◀/▶▶

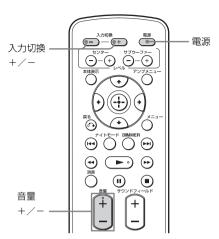
早戻し／早送りをします。

8 ▶（再生）／❚❚（一時停止）／■（停止）

13 ◀◀❙/❙▶▶

チャプターをスキップします。

14 戻るボタン

テレビの音声を聞く

1 **テレビの電源を入れて、番組を選ぶ。**
詳しくはテレビに付属の説明書をご覧ください。

2 **本機の電源を入れる。**

3 **入力切換＋／－ボタンを繰り返し押して、本機の表示窓に「TV」を表示させる。**

4 **音量＋／－ボタンで本機の音量を調節する。**

ちょっと一言

- テレビのスピーカーからも音が出ていることがあります。その場合は、テレビの音量を最小にしてください。

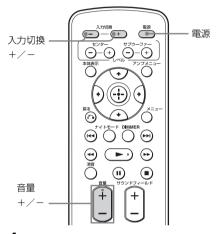
"ブラビアリンク"をお使いのときは（システムオーディオコントロール）

手順2から3は不要です。テレビの電源を入れると、自動的に本機の電源が入り、入力が切り換わります。
また、テレビのリモコンで本機の音量を調節することができます。

本機の電源を切ると、テレビのスピーカーから音が出ます。

ちょっと一言

- テレビのスピーカーから音が出ている状態でテレビの電源を切った場合、次にテレビの電源を入れても、本機の電源は入りません。

つないだ機器の音声を聞く

1 **接続機器を再生する。**

2 **本機の電源を入れる。**

3 **入力切換＋／－ボタンを繰り返し押して、本機の表示窓に入力名を表示させる。**

選んだ入力	再生する機器
TV	TV端子につないだテレビなど
BD	BD端子につないだブルーレイディスクレコーダーなど
DVD	DVD端子につないだDVDプレーヤーなど
SAT/CATV	SAT/CATV端子につないだBS/CSチューナーなど

選んだ入力	再生する機器
AUDIO	AUDIO端子につないだCDプレーヤーなど
DMPORT	デジタルメディアポート端子につないだポータブルオーディオプレーヤーなど

4 映像機器の場合、テレビの入力を、本機につないでいるHDMI入力に切り換える。

詳しくはテレビに付属の説明書をご覧ください。

5 音量＋／－ボタンで本機の音量を調節する。

ちょっと一言

- テレビのスピーカーからも音が出ていることがあります。その場合は、テレビの音量を最小にしてください。
- Dolby True HD、Dolby Digital Plus、DTS-HDに対応した接続機器で、これらの音源を再生した場合、本機ではドルビーデジタルまたはDTSとして処理されます。Dolby True HDなどの高品質サウンドフォーマットを選択している際は、可能であれば接続機器の出力設定をマルチチャンネルPCMにしてください。

ご注意

- デジタルメディアポート端子の映像出力端子を、テレビの映像入力端子につないでいる場合、本機のHDMI機器制御機能をオフ（切）にしてください（27ページ）。HDMI機器制御機能がオン（入）のままでは、デジタルメディアポート端子につないだ機器の映像を見ることができません。
- HDMI機器制御機能をオン（入）にしている場合、映像を表示せずに音声だけを楽しむには、テレビの電源を切ったあとに、本機の電源を入れなおしてください。
  本機の電源を入れたあとにテレビの電源を切ると、HDMI機器制御機能が働き、テレビにつないだ機器すべての電源が切れてしまいます。

“ブラビアリンク”をお使いのときは（ワンタッチプレイ）

手順2から4は不要です。接続機器を再生すると、自動的に本機とテレビの電源が入り、入力が切り換わります。
また、テレビのリモコンで本機の音量を調節することができます。

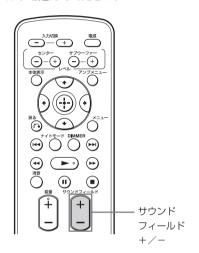
ちょっと一言

- テレビのスピーカーから音が出ている状態でテレビの電源を切った場合、次にテレビの電源を入れても、本機の電源は入りません。

サラウンド効果

サラウンド効果を楽しむ

サウンドフィールドを選ぶ

本機ではマルチチャンネルサラウンド効果を楽しむことができます。お好みのサウンドフィールドを選んでください。

サウンドフィールド＋／－ボタンを押す。

本機の表示窓に現在のサウンドフィールドが表示されます。

サウンドフィールド＋／－ボタンを押すたびに、表示が次のように切り替わります。
STANDARD ←→ MOVIE ←→ DRAMA ←→ NEWS ←→ SPORTS ←→ GAME ←→ MUSIC ←→ 2CH STEREO ←→ P.AUDIO ←→ STANDARD .....

サウンドフィールドの種類

サウンドフィールド	効果
STANDARD*	どんなソースにも幅広く対応します。
MOVIE*	セリフが聞き取りやすく、迫力のあるサウンドと臨場感が楽しめます。
DRAMA*	テレビドラマに最適な音質で楽しめます。
NEWS*	アナウンサーの声が聞き取りやすい、クリアな音声です。
SPORTS*	解説が聞き取りやすく、歓声などがサラウンドで聞こえ、臨場感が楽しめます。
GAME*	ゲームに最適な迫力あるサウンドと臨場感が楽しめます。
MUSIC*	音楽番組や音楽系のブルーレイディスク、DVDに最適な音質で楽しめます。
2CH STEREO	音楽CDに最適な音質です。
P.AUDIO**	携帯用ミュージックプレーヤーで再生されるMP3音声トラックや、その他の圧縮された音声を改善します。

* 入力切換ボタンで「DMPORT」を選択しているときは、表示されません。
**「DMPORT」または「AUDIO」を選択しているときのみ表示されます。

ちょっと一言

- サウンドフィールドは入力ごとに設定できます。
- サウンドフィールドのお買い上げ時の設定は、入力が「DMPORT」のときは「P.AUDIO」、その他の入力のときは「STANDARD」です。
- 入力切換ボタンで「DMPORT」を選択しているときは、センタースピーカーから音が出ません。
- モノラル放送時など、入力信号によっては、音の出ないスピーカーがあります。

- 「2CH STEREO」または「P.AUDIO」を選んだ場合は、センタースピーカーからは音が出ません。
- アンプメニューで「CTRL HDMI」が「ON」に設定され、かつ「SOUND.FIELD」が「AUTO」に設定されているときは、視聴中のテレビ番組のジャンルに応じて、サウンドフィールドが自動的に切り替わります（29ページ）。
- 「CTRL HDMI」が「ON」のときに、ソニー製テレビのリモコンのシアターボタンを押すと、サウンドフィールドが「MOVIE」に切り替わります（一部のソニー製テレビをのぞく）。

“ブラビアリンク”とは？

HDMI機器制御機能（“ブラビアリンク”）に対応しているソニー製品をHDMIケーブルでつなぐと、下記のように操作を簡単に行うことができます。

- ワンタッチプレイ（28ページ）
- システムオーディオコントロール（28ページ）
- 電源オフ連動（30ページ）
- オートジャンルセレクター（29ページ）

“ブラビアリンク”は、HDMI機器制御を搭載したソニーのテレビやブルーレイディスクレコーダー、AVアンプなどが対応しています。

HDMI機器制御は、CEC（Consumer Electronics Control）で使用されている、HDMI（High-Definition Multimedia Interface）のための相互制御機能の規格です。

次の場合、HDMI機器制御機能は正しく働きません。

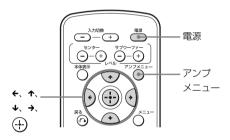
- HDMI機器制御機能（“ブラビアリンク”）に対応していない機器をつないだとき
- 本機と各機器をHDMIケーブル以外でつないだとき
- ソニー製品以外のHDMI機器制御対応機器につないだとき

本機には、“ブラビアリンク”に対応した機器をつなぐことをおすすめします。

ご注意

- 接続機器の設定によっては、HDMI機器制御機能が働かないことがあります。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

“ブラビアリンク”を使う準備をする

“ブラビアリンク”を使うには、接続機器のHDMI機器制御機能をオン（入）に設定してください。HDMI機器制御機能に対応しているソニー製テレビをお使いの場合、テレビのHDMI機器制御機能の設定を行うと、本機や接続機器のHDMI機器制御機能も連動して設定されます。

1 **本機とテレビ、接続機器がHDMIケーブルでつながれていることを確認する。**

2 **本機とテレビ、接続機器の電源を入れる。**

3 **接続機器の映像がテレビに映るように、テレビのHDMI入力と本機の入力（SAT/CATV、DVDまたはBD）を切り換える。**

4 テレビのメニュー画面にHDMI機器一覧を表示し、つないだ機器のHDMI制御を有効にする。

本機と接続機器側のHDMI機器制御機能が自動的にオン（入）に設定されます。

設定が完了すると、表示窓に「COMPLETE」が表示されます。

ご注意

- テレビや接続機器の設定については、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

「COMPLETE」が表示されないときは

本機と接続機器のHDMI機器制御を個別にオン（入）に設定してください。

1. アンプメニューボタンを押す。
2. ↑/↓を繰り返し押して「SET HDMI」を表示させ、⊕または→を押す。
3. ↑/↓を繰り返し押して「CTRL HDMI」を表示させ、⊕または→を押す。
4. ↑/↓を押して、「ON」を選ぶ。
5. アンプメニューボタンを押す。
   アンプメニュー画面表示が消え、HDMI機器制御機能がオン（入）になります。
6. HDMI機器制御機能を使用したい機器の入力（SAT/CATV、DVDまたはBD）を本機で選択する。
7. 接続機器のHDMI機器制御をオン（入）にする。
   接続機器の設定については、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

本機に接続機器を追加したり、再接続するときは

「“ブラビアリンク”を使う準備をする」や「「COMPLETE」が表示されないときは」の手順をもう一度行ってください。

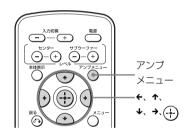
ご注意

- テレビの「HDMI機器制御」によって、接続機器のHDMI機器制御を同時に設定できない場合は、接続機器のメニューからHDMI機器制御機能を設定してください。
- テレビや接続機器の設定については、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

- 本機のHDMI機器制御機能は、工場出荷時にオン（入）に設定されています。

HDMI機器制御機能をオフ（切）にする

“ブラビアリンク”に対応していない機器や、HDMI端子のない機器をつないでいるときなどは、本機のアンプメニューでHDMI機器制御機能をオフ（切）に設定してください。

1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して「SET HDMI」を表示させ、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を押して、「CTRL HDMI」を選び、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を押して、「OFF」を選ぶ。

5 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニュー画面表示が消えます。

ブルーレイディスクを楽しむ

（ワンタッチプレイ）

接続機器を再生する。

テレビの電源が自動的に入り、HDMI入力に切り替わります。

ちょっと一言

• 本機の電源がオフ（スタンバイ）のときでも、テレビにHDMI信号が伝送されて、接続機器の映像と音声をテレビで楽しむことができます。

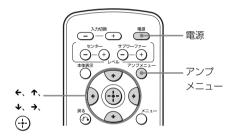
ご注意

• テレビによっては、コンテンツの開始部分が出力されないことがあります。

テレビの音声を本機のスピーカーで楽しむ

（システムオーディオコントロール）

テレビのリモコンによる簡単な操作でテレビの音声を本機のスピーカーから楽しむことができます。また、音量調整と消音ができます。

詳しくはお使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。

本機の電源を入れる。

本機のスピーカーから音が出ます。本機の電源を切ると、自動的にテレビのスピーカーから音が出ます。

ご注意

• 本機の電源を入れてから音声が出力されるまでに、時間がかかることがあります。
• お使いのテレビによっては、テレビの音量を変えたときと同じように、画面に本機の音量を示す数字が表示されますが、画面の数字と本機の表示窓の数字が異なることがあります。

デジタル放送のジャンルに応じて、サラウンド効果を自動的に切り換える（オートジャンルセレクター）

視聴中のデジタル放送の番組情報（EPG情報）を取得して、番組のジャンルに応じたサウンドフィールドに自動的に切り換えることができます（オートジャンルセレクター対応のテレビをお使いの場合のみ）。

1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して「SET HDMI」を表示させ、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して「SOUND.FIELD」を表示させ、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を押して、設定を選ぶ。

- 「AUTO」：デジタル放送のテレビ番組のジャンルに応じてサウンドフィールドが自動的に切り替わります。
- 「MANUAL」：サウンドフィールド＋／－ボタンで選んだサウンドフィールドで、音声を出力します。

5 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニュー画面表示が消えます。

番組情報対応表

番組情報（EPG情報）	オートジャンルセレクターで切り替わるサウンドフィールド
ニュース／報道	NEWS
スポーツ	SPORTS
情報／ワイドショー	STANDARD
ドラマ	DRAMA
音楽	MUSIC
バラエティ	STANDARD
映画	MOVIE
アニメ／特撮	STANDARD
ドキュメンタリー	STANDARD
劇場／公演	MUSIC
趣味／教育	NEWS
福祉	NEWS
その他	STANDARD
スポーツ（CS）	SPORTS
洋画（CS）	MOVIE
邦画（CS）	MOVIE
情報なし	STANDARD

ご注意

- 番組情報（EPG情報）に応じてサウンドフィールドが切り替わるとき、音が途切れることがあります。

音量制限機能を使う

システムオーディオコントロールが作動中に、音声出力がテレビから本機に切り替わると、本機の音量によっては大きな音が出ることがあります。こうしたことを防ぐために、本機に切り換えた後の音量を制限することができます。

1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して「SET HDMI」を表示させ、⊕または→を押す。

次のページへつづく

3 ↑/↓を繰り返し押して「VOL LIMIT」を表示させ、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を押して設定値を決める。

ボタンを押すごとに、設定値が切り替わります。

MAX ↔ 49 ↔ 48 ..... 2 ↔ 1 ↔ MIN

5 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニュー画面表示が消えます。

ご注意

- この機能は、音声出力が本機からテレビに切り替わるときには働きません。

ちょっと一言

- 設定値は、通常お聞きの音量より少し小さくすることをおすすめします。
- 設定値の大きさにかかわらず、本機とリモコンの音量＋／－ボタンを使って音量を調整できます。
- この機能を使用しない場合は、「MAX」を選択してください。

テレビと本機、接続機器の電源を切る

（電源オフ連動）

テレビのリモコンでテレビの電源を切ると、本機と接続機器の電源も連動して切ることができます。

ご注意

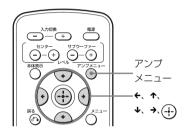
- 本機や接続機器の状態によっては、接続機器の電源を切れない場合があります。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

省電力機能を使う

（HDMIパススルー）

“ブラビアリンク”に対応したテレビをお使いのときは、テレビの電源を切ると、HDMI信号の伝送を停止して、本機のスタンバイ時の消費電力を削減することができます。
お買い上げ時の設定は「AUTO」です。

ご注意

- 「CTRL HDMI」が「ON」のとき、この機能は使えます。

1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して「SET HDMI」を表示させ、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して、「PASS THRU」を表示させ、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を押して、設定を選ぶ。

- 「AUTO」：本機のスタンバイ時に、テレビの電源を入れると本機のHDMI出力端子から信号を出力します。"ブラビアリンク"対応のテレビをお使いの場合、この設定をおすすめします。「ON」設定時よりもスタンバイ時の消費電力を削減できます。
- 「ON」：本機のスタンバイ時に、HDMI出力端子から常に信号を出力します。本機操作部のPOWER/ACTIVE STANDBYがオレンジに点灯します。

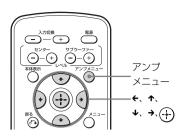
ご注意

- 「AUTO」設定時は、「ON」に設定した場合よりも映像と音声が出るまでに時間がかかることがあります。

5 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニュー画面表示が消えます。

ARC（オーディオリターンチャンネル）をオフ（切）にする

ARC（オーディオリターンチャンネル）に対応したテレビを、HDMIケーブルで本機につなぐと、テレビのデジタル音声信号が本機に伝送されます。その場合、光デジタル音声コードなどをつなぐ必要はありません。
ARCを使用しない場合はテレビと本機を光デジタル音声コードでつなぎ、本機のアンプメニューで「ARC」をオフ（切）に設定してください。

1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して「SET HDMI」を表示させ、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して「ARC」を表示させ、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を押して、「OFF」を選ぶ。

- 「ON」：ARCをオン（入）にします。
- 「OFF」：ARCをオフ（切）にします。

5 アンプメニューボタンを押す。

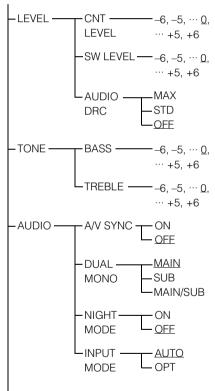
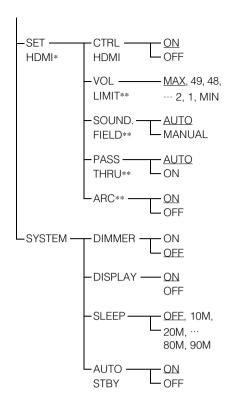
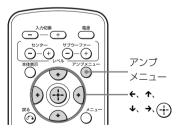
アンプメニュー画面表示が消えます。

ご注意

- HDMI機器制御機能をオフ（切）に設定しているときは、ARC機能は使用できません。また、設定を行うこともできません。

アンプメニューの設定をする

アンプメニューを使う

リモコンのアンプメニューボタンを押すと、下記の設定ができます。
お買い上げ時の設定は下線の項目です。

＊ 詳しくは「“ブラビアリンク”機能」（26ページ）をご覧ください。
＊＊これらの設定は「CTRL HDMI」が「ON」のときだけ表示されます。

1 アンプメニューボタンを押して、アンプメニュー画面を表示させる。

2 ←/↑/↓/→を繰り返し押して、設定したい項目を選ぶ。

3 アンプメニューボタンを押して、アンプメニュー画面の表示を消す。

ちょっと一言

- 電源コードを抜いても、設定は保持されます。

これからのページはアンプメニューの各設定について説明します。

スピーカーレベルを設定する（CNT LEVEL、SW LEVEL）

スピーカーとサブウーファーのレベルを設定することができます。

1 アンプメニュー画面で「LEVEL」を表示させ、⊕または→を押す。

2 「CNT LEVEL」または「SW LEVEL」を表示させ、⊕または→を押す。

- 「CNT LEVEL」：スピーカーのレベルを調節します。
- 「SW LEVEL」：サブウーファーのレベルを調節します。

3 設定値を選ぶ。

「–6」から「+6」まで、1ずつ設定できます。初期値は「0」です。

小さい音量でドルビーデジタルサウンドを楽しむ（AUDIO DRC）

サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。小さな音量で映画を楽しむときに便利です。AUDIO DRCはドルビーデジタルの音声にのみ対応しています。

1 アンプメニュー画面で「LEVEL」を表示させ、⊕または→を押す。

2 「AUDIO DRC」を表示させ、⊕または→を押す。

3 設定を選ぶ。

- 「OFF」：信号の幅は圧縮されません。
- 「STD」：制作者が意図したようなダイナミックレンジで音声を再現します。
- 「MAX」：信号の幅を最大限に圧縮します。

音質を調整する（BASS、TREBLE）

音声の低域、高域のレベルを簡単に調整することができます。

1 アンプメニュー画面で「TONE」を表示させ、⊕または→を押す。

2 「BASS」または「TREBLE」を表示させ、⊕または→を押す。

- 「BASS」：音声の低域を調整します。
- 「TREBLE」：音声の高域を調整します。

3 設定値を選ぶ。

「–6」から「+6」まで、1ずつ設定できます。初期値は「0」です。

映像の遅れに音声を合わせる（A/V SYNC）

映像が音声よりも遅れている場合、この機能で音声を遅らせることができます。

1 アンプメニュー画面で「AUDIO」を表示させ、⊕または→を押す。

2 「A/V SYNC」を表示させ、⊕または→を押す。

次のページへつづく

3　設定を選ぶ。
- 「OFF」：A/V SYNC機能を使わない。
- 「ON」：A/V SYNC機能を使って、音声と映像のずれを調節する。

ご注意
- この機能を使っても、完全に映像と合わせることができない場合があります。
- この機能は同軸入力、光入力およびHDMI入力のDolby Digital、DTS、MPEG2-AAC、リニアPCM（2ch）に働きます。

AAC（2ヶ国語放送）を楽しむ（DUAL MONO）

AACとは、BSデジタル放送や地上波デジタル放送で採用されている音声方式です。
AACでは5.1 chのサラウンド放送や2ヶ国語放送にも対応しています。
BSデジタル放送などのAAC音声を聞くには、テレビなどデジタルチューナー搭載機器側でも「光デジタル音声出力設定」などで設定を行う必要があります。デジタルチューナー搭載機器が、デジタル出力端子からAAC音声信号を出力するように設定してください。詳しくは、デジタルチューナー搭載機器の取扱説明書をご確認ください。
以上の準備が整った上で、次の操作を行ってください。

1　アンプメニュー画面で「AUDIO」を表示させ、⊕または→を押す。

2　「DUAL MONO」を表示させ、⊕または→を押す。

3　設定を選ぶ。
- 「MAIN」（主音声）：主音声のみを再生します。
- 「SUB」（副音声）：副音声のみを再生します。
- 「MAIN/SUB」（主／副）：左スピーカーから主音声、右スピーカーから副音声を同時に再生します。

小さな音量で聞く（NIGHT MODE）

小さい音量でも音響効果やセリフの明瞭さを失わずに音声を楽しめます。

1　アンプメニュー画面で「AUDIO」を表示させ、⊕または→を押す。

2　「NIGHT MODE」を表示させ、⊕または→を押す。

3　設定を選ぶ。
- 「ON」：NIGHT MODEに設定されます。
- 「OFF」：NIGHT MODEに設定されません。

ちょっと一言
- AUDIO DRC（33ページ）を使うと、小さな音量でもドルビーデジタルを楽しめます。

衛星放送チューナーからの音声を選択する（INPUT MODE）

HDMIケーブルをつないだだけでは、マルチチャンネル音声を出力できない衛星放送チューナーの場合、光デジタル音声コードもつないだうえで、この設定をおこないます。

1　アンプメニュー画面で「AUDIO」を表示させ、⊕または→を押す。

2 「INPUT MODE」を表示させ、⊕または→を押す。

3 「OPT」を選ぶ。

- 「AUTO」：HDMI SAT/CATV入力端子からの音声信号を優先して出力します。
- 「OPT」：SAT/CATV光デジタル音声入力端子からの信号を出力します。

本体表示の明るさを調節する（DIMMER）

表示窓の明るさを2段階で調節することができます。

1 アンプメニュー画面で「SYSTEM」を表示させ、⊕または→を押す。

2 「DIMMER」を表示させ、⊕または→を押す。

3 設定を選ぶ。

- 「ON」：表示窓の明るさが暗くなります。
- 「OFF」：通常状態。

表示窓の設定を変える（DISPLAY）

表示窓の設定を変更することができます。

1 アンプメニュー画面で「SYSTEM」を表示させ、⊕または→を押す。

2 「DISPLAY」を表示させ、⊕または→を押す。

3 設定を選ぶ。

- 「ON」：常時、表示窓を点灯します。
- 「OFF」：本機を操作したときに、数秒間表示窓を点灯します。

ちょっと一言

- 「DISPLAY」を「OFF」に設定しているときに、本体表示ボタンを押すと、入力信号の種類を表示します（デジタル入力のみ）。

ご注意

- 「DISPLAY」が「OFF」に設定されていても、消音機能が有効になっているときやPROTECT状態のときは、表示窓は常時点灯します。

スリープタイマーを使う（SLEEP）

音楽などを聞きながらお休みになるとき、設定した時間に本機の電源を切ることができます。時間は10分間隔で設定することができます。

1 アンプメニュー画面で「SYSTEM」を表示させ、⊕または→を押す。

2 「SLEEP」を表示させ、⊕または→を押す。

3 設定時間を選ぶ。

ボタンを押すごとに、設定時間が切り替わります。

OFF ↔ 10M ↔ 20M
↕ ↕
90M ↔ 80M 30M

ご注意

- スリープタイマーは本機にだけ適用されます。本機につないでいるテレビや他の機器には使えません。

詳細な設定

次のページへつづく

オートスタンバイ機能（AUTO STBY）

本機を操作しないまま一定時間（約30分）が経過し、本機に音声が入力されていないとき、本機の電源を自動的に切り、無駄な電力消費を抑えることができます。
お買い上げ時の設定は「ON」です。

1 アンプメニュー画面で「SYSTEM」を表示させ、⊕または➔を押す。

2 「AUTO STBY」を表示させ、⊕または➔を押す。

3 設定を選ぶ。
- 「ON」：オートスタンバイ機能を使用する。
- 「OFF」：オートスタンバイ機能を使用しない。

ご注意
- この機能によって本機の電源が切れた場合、次にご使用になるときに、テレビの電源オンに連動せずに、本機の電源がオンにならないことがあります。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

電源

電源が入らない

→ 電源コードがしっかり差し込まれているか確認する。

テレビの電源を入れても、本機の電源が入らない

→ テレビのスピーカー設定を確認する。本機は、テレビのスピーカー設定に電源が連動します。

→ 前回電源を切ったときに、テレビのスピーカーから音声が出ていた場合、テレビの電源を入れても本機の電源は入りません。

電源オフ連動機能が働かない

→ テレビの電源を切ると接続機器の電源が自動的に切れるように、テレビの設定を変更してください。詳しくは、お使いのテレビに付属の取扱説明書をご覧ください。

テレビの電源を切ると、本機の電源が切れる

→ HDMI機器制御機能をオン（入）に設定したときは、電源オフ連動機能が働き、テレビの電源を切ると、本機の電源が切れます。

本機の電源が勝手に切れてしまう

→ オートスタンバイ機能が働いています（36ページ）。

音声

Dolby DigitalやDTSのマルチチャンネルの音声が再生されない

→ ブルーレイディスクやDVDなどを再生しているときは、Dolby DigitalやDTSフォーマットの音声を選んでいるか確認する。

→ ブルーレイディスクレコーダー／DVDプレーヤーなど、本機につないでいる機器の音声設定を確認する。

サラウンド効果が得られない

→ サウンドフィールドの設定と入力信号によっては、サラウンド処理（24ページ）が働かないことがあります。本体表示ボタンを押すと、入力されている信号の種類が表示窓に表示されます。「2.0ch」や「1.0ch」と表示された場合は、ステレオまたはモノラル音声のため、サラウンド成分は含まれておりません。
「5.1ch」などと表示された場合はサラウンド音声ですが、番組やディスクによってはサラウンド成分が少ないことがあります。

本機からテレビの音声が出ない

→ テレビと本機をつないでいる光デジタル音声コード、またはアナログ音声コードの接続を確認する（14ページ）。

→ テレビの音声出力設定を確認する。

→ ARC対応のテレビをお使いの場合、HDMI機器制御機能およびARC設定をオン（入）にしてください。

本機とテレビの両方から音が出る

→ HDMI機器制御機能がオフ（切）のときや、選択した機器がHDMI機器制御機能に対応していないときは、本機またはテレビを消音する。

テレビの音声が映像より遅れる

→ 「A/V SYNC」がオン（入）に設定されていたら、「A/V SYNC」をオフ（切）に設定する。

次のページへつづく

音声の出力方法をテレビスピーカーから本機のスピーカーに変更したときに、音量が下がる

- → 音量制限機能が働いています。詳しくは「音量制限機能を使う」（29ページ）をご覧ください。

本機から接続機器の音声が出ない、または音が小さい

- → 音量＋ボタンを押し、音量を確認する。
- → 消音ボタンや音量＋ボタンを押して、消音機能を解除する。
- → 接続機器が正しく選択されているか確認する。
- → 接続機器の端子と本機の端子が、奥までしっかり差し込まれているか確認する。
- → 接続機器のHDMI設定を確認する。

一部のスピーカーから音が出ない

- → 入力されている音声の種類や、本機のサウンドフィールドの設定（24ページ）によっては、センタースピーカーから音は出ません。
- → 本機の天板に内蔵されているスピーカーは高音だけを再生します。高音成分の少ない音声の場合、聞こえにくいことがあります。

音が途切れたり、ノイズが出る

- → 「本機で対応するデジタル入力フォーマット」を確認する（41ページ）。

映像

テレビ画面に映像が出ない

- → テレビと本機を正しくつないでいるか確認する。
- → 本機でテレビが正しく選択されているか確認する。
- → テレビをビデオ入力などの該当する入力モードに設定する。
- → 本機のHDMI入力端子とHDMI出力端子を逆につないでいないか、確認する。
- → 接続機器の端子と本機の端子が、奥までしっかり差し込まれているか確認する（14、16、17ページ）。

テレビ画面に3D映像が出ない

- → テレビおよび映像機器の仕様によっては、3D表示できない場合があります。本機が対応する3D映像フォーマットをご確認ください（41ページ）。

本機が電源スタンバイのとき、テレビに映像と音声が出ない

- → 本機が電源スタンバイのときに、テレビへ出力される映像と音声は、本機の電源を切る前に最後に選ばれていたHDMI入力の信号です。視聴したい機器が、最後に選ばれていたHDMI入力と異なる場合は、機器の再生を開始して、ワンタッチプレイを実行するか、本機の電源を入れてHDMI入力を選び直してください。
- → “ブラビアリンク”に対応していない機器をつないでいる場合は、アンプメニューの「PASS THRU」が「ON」に設定されているか確認する（30ページ）。
- → HDMI機器制御機能がオフ（切）になっている。

リモコンが機能しない

- → 本機の🅁受光部に向けて操作する。
- → リモコンと本機との間に障害物を置かない。
- → 電池が古い場合は、すべての電池を新しいものに取り替える。
- → リモコンの正しいボタンを押しているか確認する。

その他

HDMI機器制御がうまく働かない

- → HDMI接続を確認する（14、16ページ）。
- → テレビのHDMI機器制御機能の設定を行う（26ページ）。
- → 接続機器が“ブラビアリンク”に対応していることを確認する。
- → 接続機器のHDMI機器制御設定を確認する。お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- → HDMI接続を変更したときは、「“ブラビアリンク”を使う準備をする」（26ページ）の手順を再度行ってください。
- → 本機の電源コードを抜き差ししたときは、15秒以上待ってから動作させる。
- → 映像機器の音声出力をHDMIケーブル以外で本機につなぐと、“ブラビアリンク”が影響して音声が出ないことがあります。その場合、“ブラビアリンク”（HDMI機器制御機能）をオフ（切）にする（27ページ）か、音声出力端子もテレビにつないでください。

本機の表示窓に「PROTECTOR」と「PUSH POWER」が交互に表示される

I/⏻（電源）ボタンを押して電源を切り、「STANDBY」が消えたら以下の項目を確認する。

- → 本機の通気孔がふさがっていないか点検する。

これらの処置をしても正常に動作しないときは—リセット

本機側のボタンを下記の手順で操作します。

1. I/⏻（電源）ボタンを押して電源を入れる。
2. 本機のINPUT SELECTOR、VOLUME －を押しながら、I/⏻（電源）ボタンを押す。
   表示窓に「COLD RESET」と表示され、アンプメニューやサウンドフィールドなどがお買い上げ時の状態に戻ります。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書の「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービス窓口へ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

次のページへつづく

部品の保有期間について

当社では、ステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間を経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：RHT-G11
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

外形寸法：mm	Ⓐ	1,130
	Ⓑ	400
	Ⓒ	452
	Ⓓ	483*
収納部内寸：mm	Ⓔ	111
	Ⓕ	139
	Ⓖ	945
	Ⓗ	344
	Ⓘ	379
質量：kg		48

* キャスタートレイを含みます。

本機で対応するデジタル入力フォーマット

本機で対応するデジタル入力フォーマットは以下のとおりです。

フォーマット	対応／非対応
Dolby Digital	○
DTS	○
MPEG2-AAC	○
リニアPCM（2ch）*	○
リニアPCM（7.1ch ）48k*（HDMIのみ）	○
リニアPCM（7.1ch）96k	×
Dolby Digital Plus	×
Dolby True HD	×
DTS-HD	×

* リニアPCMは、48 kHz以下のサンプリング周波数に対応します。

アンプ部

実用最大出力（非同時出力、JEITA*）
フロント部　100 W + 100 W、4 Ω
センター部**　100 W、4 Ω
サブウーファー部　130 W、3 Ω、100 Hz

* JEITA（電子情報技術産業協会）による測定値です。

**サウンドフィールドの設定によっては出力がない場合があります。

入力端子（アナログ）
AUDIO　入力感度：450 mV
インピーダンス：30 kΩ
入力端子（デジタル）
TV、SAT/CATV
光
DVD　同軸

HDMI部

コネクター　HDMI®コネクター
ビデオ入出力　BD、DVD、SAT/CATV：
640 × 480p、60 Hz
720 × 480p、59.94/60 Hz
1280 × 720p、59.94/60 Hz
1920 × 1080i、59.94/60 Hz
1920 × 1080p、59.94/60 Hz
720 × 576p、50 Hz
1280 × 720p、50 Hz
1920 × 1080i、50 Hz
1920 × 1080p、50 Hz
1920 × 1080p、24 Hz
Deep Color：30bit/36bit
ビデオ入出力（3D）
BD、DVD、SAT/CATV：
1280 × 720p、59.94/60 Hz
Frame packing
1920 × 1080i、59.94/60 Hz
Frame packing
1920 × 1080i、59.94/60 Hz
Side-by-Side (Half)
1920 × 1080p、59.94/60 Hz
Side-by-Side (Half)
1280 × 720p、50 Hz
Frame packing
1920 × 1080i、50 Hz
Frame packing
1920 × 1080i、50 Hz
Side-by-Side (Half)
1920 × 1080p、50 Hz
Side-by-Side (Half)
1920 × 1080p、24 Hz
Frame packing
Deep Color：30bit/36bit
オーディオ入力
BD、DVD、SAT/CATV：
リニアPCM7.1ch/Dolby Digital/DTS/AAC

フロントスピーカー部

形式
2WAY スピーカーシステム、バスレフ型
使用スピーカー
ウーファー：80 mmコーン型
トゥイーター：30 mmコーン型 × 2

センタースピーカー部

使用スピーカー
30 mmコーン型 × 2

次のページへつづく

サブウーファー部

形式
　サブウーファーシステム、
　バスレフ型
使用スピーカー
　80 mmコーン型 × 4

本体

電源　AC 100V、50/60 Hz
消費電力　電気用品安全法による表示：
　100 W
　スタンバイ状態のとき：0.3 W以下
　（本機と接続機器のあいだでHDMI信号の伝送が行われ、本機につないだテレビの電源がオン（入）のときは、スタンバイ時の消費電力が増加します。）
外形寸法（幅／高さ／奥行き）
　1,130 mm × 483 mm × 452 mm
　（キャスタートレイ設置時）
質量　48 kg

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

- デジタルアンプS-Master搭載によりアンプブロックの電力効率を85%以上に改善。
- オートオフ機能。
- 待機時消費電力20%削減（2009年度当社従来モデル比）。

索引

ブラビアリンクガイドページ

ブラビアリンクの接続や対応機器などに関する情報は、下記ホームページで確認できます。
http://www.sony.jp/bravialink/

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。

http://www.sony.co.jp/support

使い方相談窓口	修理相談窓口
フリーダイヤル ・・・・・・・・・・0120-333-020	フリーダイヤル ・・・・・・・・・・・0120-222-330
携帯電話·PHS·一部のIP電話 ・・・・・・・・・・0466-31-2511	携帯電話·PHS·一部のIP電話 ・・・・・・・・・・・0466-31-2531 ※取扱説明書·リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX（共通） 0120-333-389

上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に
「306」+「#」
を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

(1)

Sony Corporation Printed in Malaysia